



～春風・人権発表会を終えて～

春風・人権発表会を通して6年生が、色々なことを感じ学ぶことができたことを、一人ひとりの振り返りの感想文から感じ取ることができました。4・5年生も6年生の思いをしっかり受け止めて、感想を書いてくれました。6年生もその感想に目を通し、4・5年生の思いを感じ、自分たちの発表に自信を持つと同時に、久下小学校にしっかりと足跡を残し、人権のバトンをしっかり渡すことができた実感したと思います。感想の一部を紹介します。



6年生の感想



私は、人権発表会を終えて、まずは精一杯最後までやり切れて良かったです。9月から人権学習をしてきて差別のおかしさ立ち上がっていくことの大切さ、おかしなことに気づくことの大切さなどを学んできました。それを伝えるための劇でした。必死で練習して、みんなで協力しながらその人になりきって大切なことを伝えられた劇になったと思います。練習通りにはいかなかった部分もあったけれど、精一杯やりきれたのが一番だと思いました。

私は自分の宣言文で「人にはちがいがあって当たり前。差を作ってはいけません。自分のことも周りの人のことも大事にしたい。」と言いました。言ったこととやっていることが変わらないように、一人一人のちがいを個性だと思って周りの人も大切にしたいです。そして自分のことも大切にしたいです。

今日人権発表会をして良かったなあと思いました。理由は2つあります。

1つ目は、23人全員が最後まで頑張れたからです。私はとても緊張していて不安もありました。だけど、はっきりセリフを言うこともできたし、次の場面や出番に向けての行動ができたからです。

2つ目は、表現です。前日のグループの練習で、「相手の方ばかりではなく客席の方も向いてセリフを言う」というアドバイスがありました。難しいことだけどお客さんに伝えるためにそのことを意識して表現しました。セリフにも強弱をつけたり、道具もうまく使ったりしてお客さんに分かるように劇をすることができました。

そして、自分の生き方を見つめることが人権学習を通してできました。

春風・人権発表会を通じて、差別のおかしさに日常や歴史から改めて学ぶことができました。5年生までも「差別はしてはいけないこと」と学んできました。6年生では、さらに詳しく学んで、歴史の中からも差別はずっと前からあり、それが今も続いていると知りました。差別にくじけるのではなく立ち上がっていった人々の思いも考えてきました。人権発表会をして役を演じて、「差別のない社会にしよう」と思った人々の思いが分かったし、それを伝えることができました。

学習の中では「自分にできること」を考えていきました。身の回りに隠れている差別やいじめ、心の中の差別が周りにも自分にもあると感じました。それをなくしていかなければいけないと思いました。



4年生の感想



心に残ったことがあります。それは、「人の世に熱あれ、人間に光あれ」です。よく分からないこともあったけど、何かを変えるためには、行動を起こさなければ何も変わらないと分かりました。

ぼくは、万吉が差別やいじめをなくすために、自分から行動を起こすのは勇気がいるけど、万吉は自分から行動を起こすといっって自分から起こせたのがすごいと思いました。

ぼくも、差別をしたりいじめをしたりしている人を見たら、先生に言ったり、注意したいと思いました。そして、だれに見られていなくても悪いことは悪いということが分かりました。

6年生は、久下小学校も差別やいじめをなくして、みんなが平等な小学校を作りたいという思いがあったのかなあと思いました。自分もそして相手も大切にすることが大切だということが伝わってきました。自分のことを大切にできないのに相手を大切にすることは無理だと思いました。

改めて、これからも自分は人にやさしく接しているか、いじめている人がいたら注意できているかと、自分自身をみつめていきたいです。

行動を起こさないと何も変わらないけど、西光万吉は勇気を出して行動を起こし、世の中を変えようとしたのがすごいと思いました。一人ではできないことも、みんなで協力すればできないことはないと思いました。

善悪を自分で判断して悪いことをしている人を注意したいです。そして、差別がなくみんなが幸せに暮らせていけたらいいなあと思いました。



5年生の感想



春風・人権発表会を見て、私は昔から差別があることが分かりました。今もコロナで、いろんな差別はあるけど、やっぱり、今も昔もこれからも差別はしてはダメだと改めて感じました。

万吉は、差別で何度も心を傷つけられ、その苦しさや悲しさを知っています。私だったら、絶対に心が折れちゃうけど、みんな（差別を受けていない人も含めて）が平等で幸せに暮らせるようにと行動した万吉たちがすごいなあと思い心に残りました。自分のためだけでなく周りの人たちのために動ける姿がかっこいいと思いました。

6年生の感想であったように、区別だと思っていても差別していたり、心のものさしで差をつけたりしていないかと、もう一度振り返りたいと思いました。また、差別があったらではなく、差別が起こる前に、自分と人を比べたり、友だちと差をつけたりしないように心がけたいです。

春風・人権発表会を見て、私は、「すぐ行動にうつす」「ダメなものはダメ」というのが大切だと思いました。今日の劇で、あいさつをするけれど友だちや先生にも差をつけられて、無視をされるところで、「どうして無視をする必要があるのだろうか、人はみんなちがいがあって当たり前なのにどうして、差をつけるのだろうか」と思いました。このように周りの人から差をつけられて悲しい思いの中、万吉さんは、差別のおかしさを全国へ知らせようと自分だけではなく、村の人たち、周りの人、差別を受けている人々のために立ち向かう強さに感動しました。差別はあってはいけなということに改めて思いました。

私はこのようないじめや差別をなくすためにふだんから、相手のことを考えて心のものさしを作らないことが大切だと思います。私は今まで、「〇〇ちゃんには、勝っているからいいや。」とか思っていたけれど、この話で、「区別」はいいけど「差別」はダメということ、「ちがいはあって当たり前」ということを覚えておきたいです。6年生のみなさん、ありがとうございました。

